

宣命体

和我夜度爾 左加里爾散家留 宇梅能波奈 知流倍久奈里奴 美牟必
登聞我母

橘之 花散里乃 霍公鳥 片恋為乍 鳴日四曾多寸

この二首を比較すれば、訓読の漢字の多い方が読み易いことは解る。しかし、どの漢字を訓読して、どの漢字は仮借として読むべきか、直には解らない欠点がある。例へば、“母”は、“はは”と訓読するのか、“も”と仮名に読むのかは、文意や前後の関係をよく見ないと解らない。

そこで、訓読の漢字は大きく書き、仮名に読む漢字を小さく書くことにより、読み易くする、といふ方法を考へ出した。例へば、「鳴日四曾多寸」といふ風に書くのである。かうなると一段と読み易くなる。この書き方を“宣命書き”又は“宣命体”と言ふ。“宣命”とは“みことのり”の事であるが、普通は漢文体で害かれてゐて、これを“詔勅”と言ふ。これに対して、和語を漢字で書き表したものが“宣命”である。和語を漢字で書き表すものであったから、このやうな工夫が生れたものであらう。